



2014年1月6日
株式会社スカパーJSATホールディングス

弊社社長の年頭訓示について

弊社社長、高田真治は、本日の仕事始めにあたりグループ社員全員に対して次のように訓示を行いました。

株式会社スカパーJSATホールディングス 代表取締役社長 高田真治の訓示（要旨）

本年の仕事始めにあたり、現状認識と社業に取り組むにあたっての基本的な考え方を話しておきたい。

改めて事業環境を俯瞰してみると、多伝送路化、多デバイス化が進み、お客様の映像コンテンツ視聴は大きく変化し、こうした流れは早まることはあっても、従来型視聴に逆戻りすることはない。

『デジタル化』において生き残るのはお客様が求める「コンテンツ」「サービス」であり、その間の流通経路、つまり「伝送路」「メディア」「ハード」「デバイス」「技術」が盤石だということはない。というのが企業の盛衰から得られる教訓だ。当社もサービスが現状のレベル・領域に留まる限り、「衛星」「プラットフォーム」をベースにしたビジネスモデルそのものが崩れる危険性があることを全社で共有いただきたい。

そういう認識に立って本年は、改めて「基本」に立ち返り、以下の3つを全部門一丸で取り組むこと。

- 1、お客様を知り、ニーズに正対し、迅速に応える。（マーケティング）
- 2、成長へ、新領域のサービスを成功させる。（イノベーション）
- 3、支出構造をさらに改革し、成長への原資を積極投下する。（コスト）

加えて、ビジネスとは一線を画すテーマとして、本年より企業として次の2つの活動を継続的に推進し前進させていく。

- ・宇宙衛星事業部門：アジア・太平洋地域において、当社の衛星を通じて子供たちの教育機会を支援する活動。
- ・有料多チャンネル事業部門：障害者スポーツを応援する放送活動。ソチパラリンピックでは生中継70時間を含む200時間以上（予定）の放送を成功させる。多チャンネルをもつ当社だからできる放送分野であり、2020年東京パラリンピックへ向けて地道に取り組みを進める。

以上